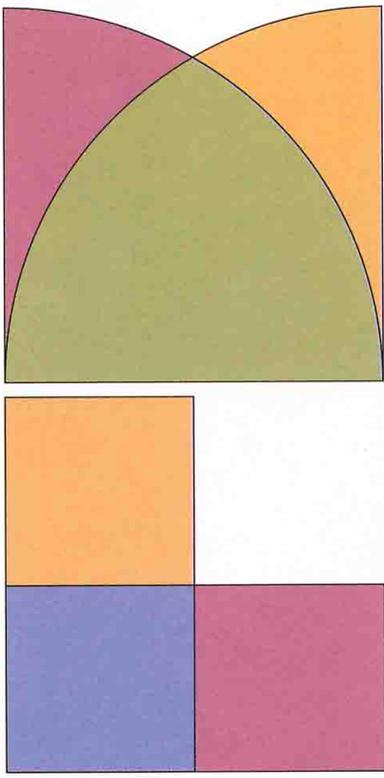


ミュージアム・レター



Gakushuin University
Museum of History

Museum Letter No. 1

発行日 ● 平成18年(2006)5月25日

もくじ

ごあいさつ	1
史料貸出	1
新収史料	2
史料修復	2
博学連携の試みと実践	3
史料館Q&A	3
お知らせ	4

Highlight -ハイライト-

- ◆ 稚児玩犬図
- ◆ 二月堂焼経
- ◆ 学習院高等科「総合」授業
- ◆ 大好き 絵すごろく展

1. ごあいさつ

学習院大学史料館では、昭和50年(1975)の開館以来、史料の収集を行っており、現在、収蔵史料の総点数は13万点を超えています。

収蔵史料は、古墳の出土品や室町時代の古文書、公家や大名の史料、江戸時代の村の名主家の史料、明治以降現代までの学習院関係者の史料、明治期の古写真、絵すごろくコレクションなど多種多様です。

このうち史料整理を終えたものは、冊子型の目録(『学習院大学史料館収蔵史料目録』第1号～第20号)や、『学習院大学史料館紀要』(創刊号～第13号)によって公表しております。

しかし目録や紀要は本来的に迅速な情報提供を行うものではありません。

そこで新収史料の紹介や、展覧会・公開講座の開催についてお知らせするミュージアム・レターを発行することにいたしました。

本レターを通して史料館をより身近に感じていただけることを願っております。

学習院大学史料館 館長 神田 龍身



学習院大学史料館

2. 他館への史料貸出等(2005年度)

- ① 福島県白河市にある白河集古苑主催の名品館ミニテーマ展示「阿部家と白河城―伝来の城絵図―」(会期7/21～9/19)と「阿部家文書の世界―将軍の領知判物―」(会期11/23～1/29)に阿部家史料が出品されました。
- ② 霞会館主催で福岡市立博物館で行われた「伊勢の神宮展」(会期1/5～2/19)に西園寺家史料が出品されました。
- ③ 江戸東京博物館・茨城県天心記念五浦美術館共催の「生誕120年川端龍子展」(会期10/29～12/11/1/2～2/19)に小西四郎史料が出品されました。
- ④ 愛知県犬山市にある博物館明治村の企画展「明治の探検家」(会期 3/18～6/25)に郡司成忠(ぐんじしげただ)海軍大尉史料が出品されています。

3. 新収史料の紹介



【稚児玩犬図(ちごがんけんず)】

※本屏風の大きさは縦102cm×横372.6cm

画面の左には橋の上に佇む「稚児」と御付の「童」の姿が描かれる。ここから、稚児の「瀬田橋」からの入水を語る『秋夜長物語絵巻』(あきのよながものがたりえまき)が自ずと想起される。世界が崩壊に瀕した時、メシアとしての稚児の犠牲死により世界は救済されるとする世界観である。流れ流れる稚児の溺死体は一つの美学と化していた。稚児物のもう一つの雄編である『足引き絵』は、かかる陰惨な『秋夜長』的稚児神話を否定するテキストであり、稚児の夭折は語らないが、それでも稚児の背後に「宇治橋」を点描することを忘れない。こうみてくると、この橋上の二人、なにかここには冷たい戦慄がはしっている様に感じられてならない。

一方、右の絵はそれとは別物であろう。「中童子」「大童子」たちが犬と戯れる絵だが、これは何を意味するのか。左の絵とは違い、いささか退廃的にして弛緩の気味がある。が、これもまた、彼ら「童」たちがおりなす世界には違いなからう。

(神田龍身)

※本屏風は2005年度に購入した史料で、2006年秋開催の史料館常設展覧会に出品する予定です

【二月堂焼経(にがつどうやけぎょう)】



紺紙銀字華嚴経断筒

4. 史料修復の報告

左の写真は修復後の「紺紙銀字華嚴経断筒(こんしぎんじけごんきょうだんかん)」です。本紙の大きさは縦23.2cm、横31.0cmです。修復では裏打ちを剥がし、欠損部分に類似の紺紙を補い、新たな裏打ちを行いました。

「紺紙銀字華嚴経断筒」は、寛文7年(1667)2月13日の奈良東大寺の御水取(おみずとり)の際の失火により、一部が焼損していることから「二月堂焼経」とも呼ばれています。この1巻は、第二次世界大戦前の旧制学習院時代の歴史地理標本室に收藏されていたもので、現在、当館で保存しています。

5. 博学連携の試みと実践

1990年代に入って学生減少という課題を前にして、各大学では「開かれた大学」を目標に掲げ、大学博物館に期待をかけたサバイバル戦略を展開しています。明治大学博物館の開館などはこれを代表するものといえます。

また、2002年4月から小学校・中学校・高等学校で導入された「総合的な学習の時間」への対応から、学校と博物館の連携が注目されています。

このような状況のなかで、学習院大学史料館では見学会の受け入れ、展覧会の解説（ギャラリートーク）を実施するなどの試みを行ってきました。さらに2005年度からは、学習院高等科の「総合」授業で「博物館を知ろう」を開講しています。2005年度の受講者は16名でした。

講座の最後の授業日の意見交換会では「学芸員を目指すには？」という質問が多く聞かれ、担当者はますますホットな気持ちになりました。

なお学習院大学には学芸員資格取得コースがあり、多くの履修者を毎年迎えています。博物館で働いている専門職員を「学芸員」と呼ぶことや、収蔵史料の調査研究、展覧会の設営・開催、くずし字の読み方などについての相談受付など、多岐にわたる学芸員の仕事について、社会一般に知られているとはいえません。高校生との交流を今後とも大切にしていきたいと思います。

※詳しいカリキュラムなどについては、齋田康範・藤實久美子「高校「総合」における博学連携の試み」(『歴史地理教育』第695号、2006年2月)をご覧ください。



高等科の授業風景(史料館実習室にて)

6. 史料館Q&A

○史料館はどのような機関ですか？

【お答えします】

まず身近なところから話をはじめましょう。史料館は学習院大学にある4つの附置研究機関のひとつで、大学長のもとに置かれています。史料館では研究・教育・文化普及活動を行っています。

○史料館は博物館ですか？

【お答えします】

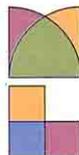
史料館は文学部史学科にあった資料室から古文書などを引き継いでいます。このため「史料館」という名称ですが、モノ史料も多数収蔵しており、実体は博物館です。法的には「博物館に相当する施設」です。

○「博物館に相当する施設」とは何ですか？

【お答えします】

博物館法(1951年12月施行)にいう博物館には、地方公共団体および民法34条の法人・宗教法人または政令で定める法人(日本赤十字社・日本放送協会)が設置する「登録博物館」と、それ以外が設置する「博物館に相当する施設」があり、設置者により区別されています。さきほどお話したように、史料館は大学が設置する博物館ですので、「博物館に相当する施設」に属し、大学がある東京都に登録されています。

↑史料館はどんなところでしょうか？



7. 刊行物と催し物のお知らせ

『史料館収蔵史料目録20号 小西四郎史料 絵双六』 発行！

948タイトルの絵双六を全点図版付きで収録。価格は1冊2,800円
(B5版400頁)。ご購入の方法については当館ホームページをご
覧ください

学習院大学史料館編『写真集 明治の記憶』(吉川弘文館)

学習院大学図書館・史料館が収蔵する古写真から明治期のもの
の437点を選んで掲載。2006年6月刊行予定。価格9,000円(A4
版250頁)。明治天皇巡幸経路に沿った日本各地の風景写真、
千島列島の開拓、八甲田山行軍から帰還した小隊の写真など
稀少な写真が多数！

第26回特別展

「大好き 絵すごろく」展

会期：2006年7月3日(月)～8月5日(土)
開室時間：10:00～17:00
場所：北2号館1階 史料館展示室
閉室日については当館ホームページでご確認下さい

入場無料です

第49回 史料館講座 「大好き絵すごろく」展記念講演

講師：江戸東京博物館学芸員 岩城 紀子氏
日時：2006年7月28日(金) 18:30～20:00
場所：学習院創立百周年記念会館1階正堂

入場無料・事前申し込み不要です

☆当館協力の企画展が開催されています

山梨県立文学館 「辻 邦生展」

会期：2006年4月29日(土)～6月25日(日)
場所：甲府市貢川1-5-35
電話：055-235-8080

ミュージアム・レター第1号

2006年5月25日発行

〒171-8588

東京都豊島区目白1-5-1

電話 03 (3986) 0221

内線 6569

FAX 03 (5992) 9219

Gakushuin University Museum of History

学習院大学史料館

● ホームページもご覧ください

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>

